

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

7月号

平成30年(2018)7月 2日



子どもたちの可能性に感心しました。

校長 市川幸男

校門を通り抜けると、あじさいが赤や青の大きな花を付け、通りすぎる人の目を楽しませてくれています。またプールからは、子どもたちの大きな歓声が届き、夏の訪れを感じる季節となりました。早いもので、もう7月となりました。季節の移り変わりは本当に早いと感じています。前月は集団下校訓練やスクールゾーン対策協議会、6年の鎌倉見学でのボランティアなど、PTA・保護者の皆様のご協力をたくさんいただきました。さらには今月21日に開催される「千秀まつり」でも、本当に多くの方々が子どもたちのために尽力してくれます。子どもたちの豊かな学校生活を送るために地域・保護者が協力してささえていただける本校は、本当に恵まれていると思います。ただただ、感謝の念しかありません。ありがとうございます。

さて、後のページでも紹介致しますが、先月14日、栄区公会堂にて栄区内14校の小学校の代表が、平和について考えたことをスピーチにして紹介する、「横浜子ども国際平和スピーチコンテスト栄区審査会」が開催されました。私もこの会に参加して、多くの感動をもらいました。平和という姿形があるわけではなく、抽象的でものすごく大きな概念であり、子どもたちにとっては難しい問題ですが、例えば

- ・世界中の飢餓に苦しむ子と、私たちの飽食についての考えを述べる子。
- ・障害をもつ身近な方とのふれあいから学んだことを切々と訴えてくる子。
- ・自分の髪の毛をヘアドネーションして、苦しんでいる人たちへの救いに取り組む子。

等々、どの子も自分の生活を振り返り、その中から感じた疑問や考えを、平和に結び付け、広げたり深めたりしています。また、自分の考えを人に伝えるためのスピーチでも、手振りを加えて語る子がいれば、話す速さや声の大きさなどを変化させる子もいるなど、聞いている人の理解・共感を得るために工夫され、実に堂々としたものでした。

ともすると、私たち大人でも毎日の生活の中、平和であることが当たり前であり、そのありがたさや、大切さについて考えずに過ごしてしまいがちです。そんな中、小学生が真剣に平和について考えるということ、そして考えたことをしっかりと主張していける姿をみて、私は、この国の将来は決して悲観するものではないと安心するとともに、平和に限らず、何か問題を感じたとき、子どもたちはそれを真剣に見つめ、理解し、解決に向け自分なりの考えを展開していきます。そしてそれを周りの友人や大人に向け発信していく子どもたちのたくましさに関心し、しっかりと認め、受容していける大人でありたいとも感じました。

冒頭で紹介しました「千秀まつり」の日は、子どもたちの待ち望む夏休み開始の日でもあります。今年は8月26日までの37日間と短めではありますが、それでも1ヶ月以上にわたる長期の休みです。この夏休みをどう過ごしていくか、単に「休み」と捉えるのか、「自分で生活を設計する機会」と捉えるのかで、ずいぶん取り組みも変わってくるのではないのでしょうか。「長期の休みを利用して、このときにしかできないことに挑戦する。」という夏休み前に先生方が必ず口にする定番の言葉には、そんな意味が込められています。1年生から6年生まで幅の広い小学生ですが、1年生には1年生なりの活動の見通し方があります。お子様の発達の状況に合わせ、子どもに取り組ませてはいかがでしょうか。夏休み明け、成長したお子様の姿が見られることを期待しています。